

インターカレッジ・コンペティション 2018 概要版

大学名	京都外国語大学
指導教員	外国語学部・英米語学科・准教授・中嶋 大輔
学生代表者	外国語学部・英米語学科・3 学年・反保 篤生
テーマ	チーム京都(仮)～もう一つの選手団～
概要	<p>京都市の大学生が連携し、「チーム Kyoto(仮)」を形成。外国人観光客に向けた観光プランの企画・立案から実際の案内業務までの活動を通して、有形・無形のレガシーを残していくことを目的とする。</p> <p>京都市内の大学はバラエティに富んでおり、コミュニケーションツールである言語を学ぶ、また国際感覚を養う学部がある大学も多くある。そこで異文化・多文化を理解し、多様性を身に着けた学生達自身が外国人観光客に対するおもてなしを考えることは非常に価値のあることであると考えます。</p> <p>このプロジェクトを進めるにあたって、学生はプランの企画立案を行う企画班と、実際に外国人観光客をガイドする案内班に分かれる。企画班は自分達が考えたプランをもとに京都市と協力、協議することで、より良いプランを案内班に提示する。案内班は寺社仏閣に関する事前学習など、充実した研修制度でガイドの質向上を図り、企画班へのフィードバックを通してより効果的なプラン作りを目指す。</p> <p>実際のプランの例としては、「世界遺産コース」「中国語コース」などがあり、多種多様なニーズに応える。また特徴として、コースごとに値段をあらかじめ設定し、そこに市バス一日乗車券、拝観料、夕食代を含めることで、スムーズな案内を目指す。</p> <p>これらの学生主体の活動を通して、有形・無形のレガシーを生み出すことができるのではないかと考える。WMG 実行委員会さんからボランティア証明書を授与していただき、大会への貢献を一生涯目に見える形で残せるものにする。また、チーム京都(仮)を継続させ、他のイベントにも積極的に関わることで持続的な社会貢献を目指す。無形のレガシーとしては、異文化体験ができるということ、ボランティア気運の高まりがあり、学生自身の成長だけでなく、社会全体にも貢献することが可能である。</p> <p>学生が世界と京都を繋げ、そしてこの取り組みによって生み出されたレガシーを未来に繋げることで、京都市にとどまらず、関西全域に良い影響を与えていく。</p>

--	--